

長文読解問題集

も

く

じ

第1回	物語文(1)	家族	4	第9回	随筆文(1)	随想的文章	100
第2回	物語文(2)	成長	16	第10回	随筆文(2)	紀行文	112
第3回	物語文(3)	友情	28	第11回	随筆文(3)	文学的随筆	124
第4回	物語文(4)	近代の童話	40	第12回	随筆文(4)	論說的随筆	136
第5回	説明文・論説文(1)	言葉と文化	52				
第6回	説明文・論説文(2)	自然と人間	64				
第7回	説明文・論説文(3)	社会	76				
第8回	説明文・論説文(4)	思想・哲学	88				

基本問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

20 15 10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

45 40 35 30 25

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

70 65 60 55 50

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

100 95 90 85 80 75

(注) 秋田で…病気になるたおじいちゃんのお世話で、お母さんが福岡に行き、五年

(三輪裕子「鳥海山の空の上から」より)

生の翔太は、秋田のおばさんの家で世話になることになった。

ムーミン：フィンランドの作家トーベ・ヤンソンの小説に登場するキャラクター。日本でアニメ化された。

切迫流産：妊娠中で流産しかけている状態のこと。

アイポッド：デジタルオーディオプレイヤーの一つ。

嵐：男性アイドルグループ。 ジブリ：アニメ制作会社。

□問一

線①「母さんから先手を打たれて」とありますが、「先手」とはどのようなことが考えられますか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ゲームばかりしないようにという電話があったこと。

イ 宿題を終わらせておくように言われたこと。

ウ きちんとお昼ご飯を食べるようにというメモがあったこと。

エ 秋田に持っていく本を選んでおけと言われたこと。

□問二

線②「思いがけない」とありますが、秋田に行くつもりでいる翔太にとって何が思いがけないことだったのですか。「提案」という言葉を使って二十五字以内で答えなさい。

□問三

線③「秋田でいやなことがあったら、すぐにわたしに電話しなさい」とありますが、このときの一枝姉さんの気持ちを「記憶」という言葉を使って五十文字以内で答えなさい。

□問四

線④「一枝姉さん、そんなこと何もいってなかったよ」とありますが、一枝姉さんが言わなかったのはなぜだと考えられますか。「先入観」という言葉を使って四十文字以内で答えなさい。

□問五

線⑤「なんだか静かすぎて、さみしいような気がした」とありますが、翔太がそう感じた理由を「つながり」という言葉を使って四十文字以内で答えなさい。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

練習問題

ハルは、小学五年生。夏休みの初日に、一人で買い物に出かけたとき、離れて暮らしていた父に突然呼び止められ、そのまま二人で旅に出してしまう。父とハルは、さまざまなお会いと経験をしながら旅を続けるが、八月のある日、ハルはまた突然、母の元に戻されることになった。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

15 10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

70

65

60

55

50

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

100

95

90

85

80

75

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

125

120

115

110

105

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(角田光代「キッドナップ・ツアー」より)

問一

線①「おとうさんと目があう」とありますが、このときのハルは、どのように思っていたのですか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 私の貯金を使っいいいとなれば、おとうさんは一人でも旅を続けられるかもしれない。

イ 私がどれだけおとうさんといっしょにいたいのか、今伝えないと家に帰されてしまう。

ウ 貯金のことを知れば、おとうさんは私のことをしっかりした娘だと見直してくれるだろう。

エ おとうさんが私といっしょに旅をして本当に楽しかったのかどうか、どうしても確かめたい。

問二

線②「私きつとろくでもない大人になる」とありますが、こう言ったときのハルの気持ちとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 親が自分に対して愛情を持っていないことに気づき、すっかり落ちこんでいる。

イ 自分の面倒を全く見てくれず、遊んでばかりいる親に嫌気がさしている。

ウ 親が自分の気持ちを受け止めてくれないことに、今までにない怒りを感じている。

工 親の身勝手に振りまわされ、言いなりになっている自分を
情けなく思っている。

□問三 線③「きらいだし、かつこ悪い」について、次の問いに
答えなさい。

(1) この話をしているときの父親の態度を示す言葉で、自分の
考えはどうしてもゆずれないという強い思いがうかがえるも
のを文章中からさがし、四字で書きぬいて答えなさい。

(2) 父親はハルにどのような生き方をしてほしいと思っていま
すか。三十五字以内で答えなさい。

□問四 ハルは、この旅をどのような気持ちでふり返っていますか。
最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア つらい旅が無事に終わって安心したからか、おとうさんが

何だかい人に思えてくる。
イ 旅が終わってしまったてさびしいけれど、おとうさんと過ご
せて本当によかった。

ウ もう少し長く旅を続けられたら、もっとしっかりおとうさ
んと話ができてよかったのに。

□問五 旅を終えたハルは、父親のことをどのような人間と思うよう
になりましたか。「見た目はよく、自分にとってよく」という
形で五十字以内で答えなさい。

工 旅自体は楽しかったけれど、おとうさんはやっぱり私に
とって遠い人だ。

□問六 この文章の特徴として最もふさわしいものを次から選び、記
号で答えなさい。

ア 物語が会話を中心に展開されていて、発言から人物像や心
情を読み取ることができる。
イ 登場人物同士の激しいやりとりから、物語の山場らしい緊
張感が伝わってくる。
ウ その時々的情景や登場人物の行動が簡潔に表現され、軽や
かな調子で文章が進行している。
エ 巧みな比喻によって、主人公の心情の変化や思いの強さが
表されている。

□問七

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

発展問題

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

20 15 10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

75

70

65

60

55

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

105

100

95

90

85

80

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

130

125

120

115

110

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(注) 竹西寛子「蘭」より

(注) 国民服：国民が常用すべきものとして、第二次世界大戦中に広く男子に

用いられた服装。型は軍服に似ている。

モンペ：袴の形をして足首の部分のくびれた衣服。第二次世界大戦中は

婦人の普段着として用いられた。

腰板：ここでは、列車の窓枠の下の部分に張った板。

鎧戸：細長い板を斜めに、間をあげて横に並べてつないだ戸。窓の

外側につけて、日光の直射を防ぎ、風通しをよくする。

軍需工場：戦争に必要な武器・弾薬・航空機・車両などを製造する工場。

これらの工場は秘密保持のために写真を撮ることが禁じら

れた。

当局：ここでは、政府または軍部などの機関。

カーキ色：黄色に薄い茶色の混じった色。旧陸軍の軍服に用いられたた

め、国防色とも言われた。

嵩じる：高じる。ひどくなる。 懇意：親しくつき合っている様子。

仕舞屋：商店街の中で、商売をしていない家。もとは、商売をやめた家

の意味。

女将：料理屋・宿屋などの女主人。

140

135

掘割：地面を掘り開いて造った水路。

□問一

線①「父親は、ひさしを伴うのに、葬儀という名目があつてむしろよかつたと思つた」とありますが、どうしてそう思つたのですか。「息子」「旅」という言葉を使つて六十字以内で答えなさい。

□問二

線②「ひさしは、今自分がこの女のひとのため出来るのは、心からお礼を言うことだけだと思つた」とありますが、どのような理由でそう思つたのですか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 父といっしょに食事をしながら女将の様子をじっくりと見ていた。この人について知らないことは多いが、女将をほげます父のあいさつを聞いているうちに子供でもお礼は言えるかと判断できたから。

イ 自分たちをもてなすために女将が一生懸命準備をしてくれたのを知つた。悲しみの中でも他人のためにつくしてくれるこの人に対して子供でも精いっぱいあいさつをすべきだと考えたから。

□問三

ウ 店で食事をとっているうちに女将の悲しみを何となく知るようになった。この人のために自分も何かしてあげたいとは思ひはしたが、子供の自分にできることは他に何も無いことに気づいたから。

エ 店に来て初めて女将の人生について真剣に考えることができた。この人には今はげましがいちばん必要なことがわかつたが、子供の自分がそれを言うと生意気に聞こえるかもしれないと思つたから。

--

文章中の「**エ**」の場面では、「ひさし」の心情はどのように変化していますか。次のそれぞれの部分に描かれてる気持ちを、①・②は三十字以内、③は四十字以内で答えなさい。

①「指で父親の膝をつついた」

②「その表情を見た途端、ひさしは、『何か挟まっているみたいだけど、大丈夫、取れそうだから』と言ってしまった。取れそうな気配もなかった」

問四

線③ 「ひさしは、自分の意気地なさを後悔した」とありますが、それはどういうことですか。「歯の痛み」「扇子」という言葉を使って七十字以内で具体的に説明しなさい。

③ 「ひさしは、頭から冷水を浴びせられたようだった」

問五

線④ 「ぎごちない足どりで駅に向かっていった父親の背が、対いの席で目を閉じている父親に重なった」について、次の問いに答えなさい。

(1) 父親は、現在どのような状況じょうきょうを生きていますか。父親の置かれていた状況を「工場」「同業の友人」という言葉を使って、九十字以内でまとめなさい。

(2) (1)で答えたような父親の姿や、「女のひと」を見て、「ひさし」は人生に対してどのようなことを感じていると考えられますか。「大切なもの」という言葉を使って五十文字以内で答えなさい。

